長崎大学教育学部紀要－教育科学－　第57号　113～119（1999年6月）

進路指導に関する研究Ⅱ

―― 長崎大学の新入生における進路指導の調査 ――

朝　長　昌　三

A Study of Career Guidance Ⅱ

― An Investigation on Career Guidance for the Freshmen of Nagasaki University ―

Shozo TOMONAGA

進路指導は「他のだれにもない，その生徒の個性を最大限に伸ばす」という教育の目標の一つを達成する教育活動であり，また，援助活動でもあるとされている。特に，高等学校では，進路指導は，「在り方生き方」の指導として教育課程の中に明確に位置づけられている。すなわち，平成元年3月告示の「高等学校学習指導要領」の総則において，「生徒が自らの在り方生き方を考え，主体的に進路を選択することができるよう，学校の教育活動全体を通じ，計画的，組織的な進路指導を行うこと」と，高等学校における進路指導の目標を明示した。

以上のように，高等学校の進路指導においては，生徒一人一人の夢と希望を育み，生涯にわたって自己実現を図っていくことのできる能力・態度を育成するように，その一層の改善を図っていく必要があるとされているものの，いろいろな問題点が指摘されている。すなわち，進路指導を推進する校内組織は確立されているが，少なからず，指導の目標や計画がなく，あるいは，ホームルーム活動等における日常の指導が行われないままに，進路指導部（課）まかせの，もっぱら，3年生に対する進学先の選定のための指導となっているところに問題があるとされている。

そこで，本研究は長崎大学の経済学部，医学部，歯学部，薬学部，工学部および水産学部の新入生に対して調査を行い，彼らが高校3年生のときにどのような進路指導を受けてきたかについて検討することを目的とした。

方　法

1．調査対象

平成9年度入学の教育学部生を除いた長崎大学生507人

2．質問項目

（1）現在の学部に決めたのは，次のうち，特に誰のアドバイスによりますか。

① 進路指導の先生

② 担任の先生

③ 親

④ 兄弟

⑤　自分自身
⑥　友達
⑦　その他

（2）（1）の質問で，決め手になったのは次のどれですか。
①　成績
②　興味
③　その他

（3）現在の学部に満足していますか。
①　十分満足している
②　まあまあ満足している
③　不満足である

（4）（3）で不満足と答えた人に対して，
不満足ではあるが，①　このまま続けてみる
②　進路変更を考えている

（5）今，仮に，あなたが大学受験を控えた高校3年生だとした場合，大学受験についてどのようなアドバイスがあったら，もっとよかったのに，と思いますか。

3．調査手続き

被験者に対して，学部名，課程名，専攻名，学籍番号，氏名，出身校名およびその所在県名，公立と私立の区別等について記させた。

質問項目（1）については，特に誰のアドバイスによるのかを強調し，1つだけを記させた。

結　果

被験者507人の進路決定のためのアドバイスとその決定要因および満足度について，以下のような結果を得た。

1．進路決定のためのアドバイスとその決定要因

（1）進路指導の先生のアドバイスによって長崎大学に入学した学生は13人で全体の約3％，そのうち成績を決定要因にした学生は9人，興味を抱いて入学した学生は3人，その他の要因によるものが1人であった。

（2）担任の先生のアドバイスによって入学した学生は57人で全体の約11％，そのうち成績によるものが40人，興味によるものが16人，その他が1人であった。

（3）親のアドバイスによって入学した学生は50人で約10％，そのうち成績によるものが32人，興味によるものが17人，その他が1人であった。

（4）兄弟のアドバイスによって入学した学生は4人で約1％，そのうち成績によるものが2人，興味によるものが2人であった。

（5）自分自身が決定を下し入学した学生は363人で約71％，そのうち成績によるものが173人，興味によるものが190人であった。

（6）友達のアドバイスによって入学した学生は9人で約2％，そのうち成績によるものが5人，興味によるものが4人であった。

（7）その他のアドバイスによって入学した学生は11人で約2％，そのうち成績によるものが6人，興味によるものが4人，その他が1人であった。

2．満足度

長崎大学に入学したことに満足している学生は391人で，全体の約77％であった。それに対して不満足とした学生は116人で，約23％であった。そのうち96人がこのまま学生生活を続けるとしており，20人が進路変更を考えているとした。その内訳は以下の通りであった。

（1）進路指導の先生のアドバイスによって入学した学生は13人で，そのうち長崎大学の各学部に入学したことに満足している学生は11人，不満足とした学生は2人であった。また満足している学生11人のうち成績によるものが8人で，興味によるものが3人であった。不満足な学生2人のうち成績によるものが1人で，進路変更を考えているとした。またその他のアドバイスで入学したもののの学生生活には不満足だが，このまま学生を続けるとしたものが1人であった。

（2）担任の先生のアドバイスによって入学した学生は57人で，そのうち満足している学生は41人，不満足者は16人であった。満足者41人のうち成績によるものが28人，興味によるものが12人，その他が1人であった。不満足者16人のうち成績によるものが12人で，このうち10人は学生生活を続けるとしているが，2人は進路変更を考えているとした。また興味によるものが4人で，そのうち継続するものが3人で，1人は進路変更を考えているとした。

（3）親のアドバイスによって入学した学生は50人で，そのうち満足している学生は34人，不満足者は16人であった。満足者34人のうち成績によるものが21人，興味によるものが13人であった。不満足者16人のうち成績によるものが11人で，このうち3人が進路変更を考えているとした。興味によるものが4人で学生生活を続けるとした。またその他が1人で，このまま学生生活を続けるとした。

（4）兄弟のアドバイスによって入学した学生は4人で，彼らは学生生活に満足しているとした。また彼ら4人のうち成績によるものが2人で，興味によるものが2人であった。

（5）自分自身が決定を下し入学した学生は363人で，学生生活に満足している学生は289人，不満足とした学生は74人であった。満足している学生289人のうち成績によるものが125人，興味によるものが164人であった。不満足者74人のうち成績によるものが48人で，そのうち7人が進路変更を考えているとした。また興味によるものが26人で，そのうち3人が進路変更を考えているとした。

（6）友達のアドバイスによって入学した学生は9人で，そのうち満足している学生は5人で，不満足者は4人であった。満足している学生5人のうち成績によるものが2人，興味によるものが5人であった。不満足者4人のうち成績によるものが3人，そのうち進路変更を考えているものが1人であった。また興味によるものが1人で，このまま学生生活を続けるとした。

（7）その他の理由で入学した学生は11人で，そのうち満足している学生は6人，不満足な学生は5人であった。満足している学生6人のうち成績によるものが2人，興味によるものが3人，その他が1人であった。また不満足者5人のうち成績によるものが4人で，そのうち1人が進路変更を考えているとした。興味によるものが1人で，進路変更を考えているとした。

3．高等学校の進路指導に対する要望

「自分が大学受験を控えた高校3年生であると仮定した場合，進路についてどのようなアドバイスが欲しいですか」という質問に対して，高等学校の進路指導に対して満足であったと答えたのは6件であった。それに対して，進路指導に関する要望と考えられたものは259件であった。その中で，どちらかといえば高等学校への要望と考えられたものは186件，どちらかといえば大学への要望と考えられたものは12件，どちらかといえば自分自身への反省と考えられたものは61件であった。

そこで，以上3種類の要望について検討し，次のような結果を得た。

（1）進路指導の先生のアドバイスによって入学した学生の要望

成績で決定し，満足している学生で，高校の進路指導に関する要望は2件であった。

興味をもって入学し，学生生活に満足している学生で，進路指導に関する要望は3件であった。

（2）担任の先生のアドバイスによって入学した学生の要望

成績で決定し，満足している学生で，高校の進路指導に関する要望は10件，自分自身の反省は2件であった。

成績で決定し，不満はあるものの今後も学生生活を続けるとした学生で，進路指導に関する要望は6件，自分自身の反省は3件であった。

成績で決定したものの，進路変更を考えている学生で，進路指導に関する要望は1件であった。

興味をもって入学し，学生生活に満足している学生で，進路指導に関する要望は4件，大学への要望は1件，自分自身の反省は1件であった。

興味をもって入学し，不満はあるものの今後も学生生活を続けるとした学生で，自分自身への反省は1件であった。

興味をもって入学したものの，進路変更を考えている学生で，進路指導に関する要望は1件であった。

（3）親のアドバイスによって入学した学生の要望

成績で決定し，満足している学生で，高校の進路指導に関する要望は7件，自分自身の反省は2件であった。

成績で決定し，不満はあるものの今後も学生生活を続けるとした学生で，進路指導に関する要望は4件，自分自身の反省は2件であった。

成績で決定したものの，進路変更を考えている学生で，進路指導に関する要望は1件であった。

興味をもって入学し，学生生活に満足している学生で，進路指導に関する要望は7件，自分自身の反省は1件であった。

興味をもって入学し，不満はあるものの今後も学生生活を続けるとした学生で，進路指導に関する要望は1件，大学への要望は1件，自分自身への反省は1件であった。

（4）兄弟のアドバイスによって入学した学生の要望

成績で決定し，満足している学生で，自分自身の反省は1件であった。

（5）自分自身による決定によって入学した学生の要望

成績で決定し，満足している学生で，高校の進路指導に関する要望は46件，大学へ

の要望は5件，自分自身の反省は12件であった。

成績で決定し，不満はあるものの今後も学生生活を続けるとした学生で，進路指導に関する要望は17件，自分自身の反省は5件であった。

成績で決定したものの，進路変更を考えている学生で，進路指導に関する要望は3件，大学への要望は1件，自分自身の反省は1件であった。

興味をもって入学し，学生生活に満足している学生で，進路指導に関する要望は54件，大学への要望は4件，自分自身の反省は19件であった。

興味をもって入学し，不満はあるものの今後も学生生活を続けるとした学生で，進路指導に関する要望は8件，自分自身への反省は6件であった。

興味をもって入学したものの，進路変更を考えている学生で，進路指導に関する要望は3件，自分自身への反省は1件であった。

（6）友達のアドバイスによって入学した学生の要望

成績で決定し，満足している学生で，高校の進路指導に関する要望は1件，自分自身への反省は1件であった。

成績で決定し，不満はあるものの今後も学生生活を続けるとした学生で，進路指導に関する要望は1件であった。

興味をもって入学し，学生生活に満足している学生で，自分自身への反省は2件であった。

興味で決定し，不満はあるものの今後も学生生活を続けるとした学生で，大学への要望は1件であった。

（7）その他のアドバイスによって入学した学生の要望

成績で決定し，満足している学生で，高校の進路指導に関する要望は1件であった。

成績で決定し，不満はあるものの今後も学生生活を続けるとした学生で，進路指導に関する要望は2件であった。

成績で決定したものの，進路変更を考えている学生で，進路指導に関する要望は1件であった。

興味をもって入学し，学生生活に満足している学生で，進路指導に関する要望は1件であった。

興味をもって入学したものの，進路変更を考えている学生で，進路指導に関する要望は1件であった。

以上のように，教育学部を除いた6学部の新入生507人のうち約71％の学生が自分自身で長崎大学への進学を決定した学生で，そのうち約80％の学生が学生生活に満足しているとした。それに対して自分以外の人のアドバイスによって入学した学生は29％で，そのうち約70％の学生が学生生活に満足しているとした。

考　察

本研究の目的は，長崎大学の新入生が高等学校3年次に，進学についてどのような指導を受けたかを検討することを目的とした。

進路決定に関して，自分自身で長崎大学の各学部への進学を決定したのは約71％，それに対して自分以外の人のアドバイスによって進学を決定したのは約29％であった。

高等学校の進路指導に対する要望は次の４つに分類された。すなわち，「大学卒業後の就職」,「大学の授業内容，勉強の仕方，大学の特色」，「大学の選び方，および態度」,「受験科目」に大別された。

「大学卒業後の就職」は，大学（学部）を卒業するとどのような職に就けるのか，その詳しい情報を提供して欲しかったとするもので，28件の要望があった。

「大学の授業内容，勉強の仕方，大学の特色」は，大学ではどのような授業が開講されているのか，大学ではどのように勉強すればよいのか，また各大学はどのような特色をもっているのか，といったことを進路指導の時間に教えて欲しかったとするもので，123件の要望があった。

「大学の選び方，および態度」は，高校の先生が進路決定の際，決定の基準を成績に置き，生徒の希望を無視した指導に対する不満で，35件の要望があった。

「受験科目」は，受験する大学の試験科目にどのような科目があるのかを教えて欲しかったというもので，４件の要望があった。

以上の要望のように，今後の進路指導は，大学入学後の学生生活についての情報も，進路指導の内容に組み入れた指導を行う必要があると考えられた。

大学への要望については10件の要望があり，高等学校に出している大学案内よりももっと詳しい資料を欲しい，といったものであった。

自分自身の反省については「入学前の態度」と「入学後の大学のこと」の２つに大別された。

「入学前の態度」は，自分の進路については自分で悔いのない選択をするべきといったもので47件,「大学のこと」は自分が大学で何を学びたいのかを考えたうえで大学（学部）を選択するべき，といった意見で16件あった。

以上のことからわかるように，高校における進路指導では，大学に入れることを強調はしても，入学後の大学生活について配慮された指導は行われておらず，学生の不安のもとになっていることがわかる。このことは，学習指導要領における進路指導の理念が守られていないともいえる。すなわち,「生徒が自らの在り方生き方を考えた」進路選択が図られていないといえる。

本調査で得た結果は，高校生の進路に関する意識および進路選択の問題点と同様の状況であると考えられる。すなわち，①自己の興味・関心の方向や能力・適性について理解しておらず，また，職業生活，社会生活などの幅広い理解に基づく将来の生き方の多様性，選択可能性について理解していないために，就きたい職業や活躍したい分野など，高校生にふさわしい将来の夢や希望，目的をもっていない。②将来の夢や希望がないために，また，上級学校について，各学校，学部・学科等の教育内容や教育の特色について理解していないために，何のために，何を上級学校で学ぶのかといった，進学の意義や目的を理解しておらず，進学したい学校，学部・学科がわからない。また，職業や勤労について，何のために働くか，働くことが自分の生き方とどうかかわるかなど，それらの意義や目的を理解しておらず，就職したい産業や職種がわからない，といったような進路指導上の問題点が指摘されている。これらの問題点は本学新入生にとっても同様の問題点と考えられる。

そこで，以上のような問題点を解消するために，高等学校教育の改革がが進められている。すなわち，生徒一人一人の個性を重視し，豊かな人間性を培う，これからの高等学校

教育において，進路指導は，生徒が自己の興味・関心等に応じた教科・科目の学習を選択するとともに，それらの学習を通じて自己の能力・適性を発見し，伸長するための教育活動として，また，生徒が自己の能力・適性，興味・関心を生かした将来の生き方や進路の選択決定に欠くことができない教育活動として，一層重視されなければならない，と提言されている。

要　約

本研究は，長崎大学の教育学部を除いた6学部の新入生507に対して調査を行い，高等学校3年次にどのような進路指導を受けたかについて検討することを目的とした。結果は以下の通りであった。

1．進路決定に関して，自分自身で長崎大学への進学を決定したのは約71%，それに対して自分以外の人のアドバイスによって進学を決定したのは約29%であった。
2．高等学校の進路指導に対して，満足としたのは6件，それに対して高等学校への要望と考えられたものは259件であった。そのなかで，どちらかといえば，高等学校への要望と考えられたものは186件，どちらかといえば大学への要望と考えられたものは12件，どちらかといえば自分自身への反省と考えられたものは61件であった。
3．本調査で得た結果は，学習指導要領で「自らの在り方生き方を考え，主体的に進路を選択すること」といった提言をあらためて考えなければならないものであった。

参考文献

小竹正美・山口政志・吉田辰雄　1996　進路指導の理論と実践　日本文化科学社
文部省　1994　個性を生かす進路指導をめざして―生き方の探求と自己実現への道程―　海文堂出版株式会社
文部省　1995　個性を生かす進路指導をめざして―生徒ひとりひとりの夢と希望を育むために―　日本進路指導協会
文部省　1997　高等学校学習指導要領解説―総則編―東山書房
坂野雄二・宮川充司・大野木裕明　1996　生徒指導と学校カウンセリング　ナカニシヤ出版